



しんわ

No.147

秋季号
2024年

IHI
播磨病院



- * ウインドシンセ
- * 着任のご挨拶
- * 第74回日本病院学会に参加して
- * AIOドラゴンボートフェスティバル2024始末記

ウインドシンセ

副院長 小泉 龍一

2年ほど前から回復期病棟のリハイイベントの一環として、ウインドシンセサイザー(以下ウインドシンセ)を用いたカラオケを定期的に行っています。患者さんや職員から『あれは何ていう楽器ですか?』と何度か訊かれたので、この機会にお話してみようと思います。

ウインドシンセとは、管楽器の奏法(運指)で音を出ることができる電子楽器のことです。1974年にアメリカのコンピュートン社がLyricon(図1)という商品を販売したのが始まりです。しかしあまりに高額(当時の価格で180万円!)でセッティングも煩雑だったためあまり売れず、1981年にこの会社は倒産しました。ここでウインドシンセは歴史から消えそうになります。しかし、ナイルスタイ



図1 Lyricon



図2 EW1000

ナーという人が製作したウインドシンセの豊かな表現力に木管楽器奏者が注目し、改良を依頼して、現在のEWIシリーズの原型が作られます。その特許をAKAI(旧赤井電機株式会社)が買い取り、EWI1000(図2)として製品化しました。その開発にはT-SQUAREの伊藤たけし(図3)も携わり、TRUTH(F1のテーマ曲)をEWIで演奏してこの楽器が世界的に有名になりました。一方国内では、電子楽器に参画していたRolandが2016年にエアロフォン(図4)を発売します。その後YAMAHAもWX7(図5)を発売し、現在国内のウインドシンセは、AKAI、Roland、YAMAHAが3強です。ウインドシンセ全般の利点は、

- ①息さえ吹き込めば音が出ること。本物のサックスは吹き手を選びます。何十万円も出してもうまく音が出ない可能性があり怖くてなかなか手が出ません。ウインドシンセはリーズナブルな価格(5~10万円ほど)でもあり、楽器を始めるハードルがかなり低くなりました。
- ②ヘッドフォンをすれば真夜中でも爆音で練習ができること。運指がサックスとほぼ一緒なので、練習のために使っているプロのサックス奏者もいるようです。
- ③小型で軽量(900gほど)なこと。
- ④メンテナンスが楽であること。



図3 伊藤たけし



図4 エアロフォンAE-10
(Roland)
色違い3本
赤は島村楽器の限定品
(ネットで中古をやっと
見つけました)

⑤リードなどの交換が不要なので、ほとんど維持費がかからないこと(電気代程度)。

⑥新型コロナが流行し、飛沫が飛び散る管楽器は冷遇されましたが、ウインドシンセはその心配がほぼないこと。

⑦コンピューターに接続すればMIDI鍵盤のように演奏を記録でき、編集、作曲できること。MIDIとは、電子楽器同士で演奏データを転送するための共通規格です。

ウインドシンセの中でもとくにエアロフォンの特徴としては、

①スピーカーが内蔵されており、単体で音を鳴らすことができること。初期のEWIなどのウインドシンセは音を出すには外部スピーカーが必要でした。

②単独で12段階の移調が可能なので、運指を変えずともピアノの楽譜で演奏ができること。運指が難しいときに、楽な運指になるよう移調することもできます。絶対音感があると、移調した際に違和感が残り困るようですが、幸い私は全く問題ありません。

③オクターブキーがボタン式なので直感的に操作が可能で初心者にも演奏が容易なこと。EWIはローラー式のためかなり慣れが必要でした。

④管楽器だけでなく、弦楽器、鍵盤楽器、民族楽器など多彩な音色を出せること。

⑤スマホの伴奏と自分の出した音を内蔵スピーカーから一緒に流すことができること

…など利点を挙げればきりが無いエアロフォンですが、それでもきちんと音を鳴らすにはある程度の知識やセッティングが必要です。実は私は最初買った際に音が出せず、壊れてるんじゃないかと思って分解してしまいました…。取説を読みこんでいくうちにセッティングの問題であることに気づき、何とか事なきを得ています。分解したおかげで内部構造がわかり、トラブル時に対策しやすくなったのは怪我の功名です。

曲の選択などまだまだ試行錯誤を繰り返している段階ですが、回を重ねるうちに少しずつ高齢の方の好みがわかってきたようにも思います。今後も音色やシステム構成(図6)などの改良を続けてゆきたいと思います。



図5 WX7



図6 現在のシステム
① エアロフォン
② このアンプで音にイフェクトをかけ
③ このアンプで音を大きくしています

着任のご挨拶



眼科部長
萩原 正典

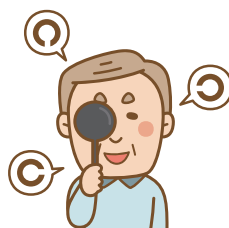
7月1日に奉職しました萩原正典と申します。出身は兵庫県で藤田医科大学を卒業後、兵庫医科大学病院の眼科に入局しました。その後は県立尼崎総合医療センター、神戸百年記念病院に勤務していました。

以前に上郡の病院に非常勤で行っていたことはありましたが、その後こちらに来る機会がなかなかなかったので、新しい土地で新鮮な気持ちで勤務させて頂いています。牡蠣が大変おいしくて安いと聞いたので、季節になるのを楽しみにしています。

今まで手術では主に白内障手術、外来では糖尿病網膜症や加齢黄斑変性などの網膜・硝子体疾患や緑内障、その他一般眼科の診療を行っていました。

白内障は加齢性の疾患で、70歳頃以降に見にくさなどの症状が出てきます。通院されている患者様は御高齢の方も多く、当院での需要は高いと考えています。生活に車を利用されている方も多く、免許更新をきっかけに眼科を受診される方もよくおられます。また糖尿病網膜症や緑内障は定期的な通院の継続が大切な疾患で、通院が中断しないように、また点眼コンプライアンスが悪くならないように工夫して診療を行っています。

これまでの経験を活かし、微力ながら地域医療に貢献できればと考えています。いろいろとお世話になるかと思いますが、ご指導、ご鞭撻の程を何卒よろしくお願い申し上げます。



第74回日本病院学会に参加して

リハビリテーション科 柴田 智規



7月3日から5日にかけて三重県で開催された第74回日本病院学会に、薬剤科の石田科長、澁谷さん、リハビリテーション科から松田科長、柴田が参加しました。前日、松田科長と共に三重に入り、松阪牛のホルモンと焼肉を堪能しました。

学会初日は、会場を見て回り、ランチョンセミナーで『口腔管理』や『摂食嚥下リハビリテーション』が病院経営に貢献できるかについて～当院でも導入予定の栄養加算について聴講しました。今まで理解が浅かった栄養加算の重要性を改めて認識できました。

その後、私はリハビリテーション部門でポスター発表を行いました。学会参加は2回目でしたが、1番目の発表で不安もありました。質疑応答はありませんでしたが、座長からデータの見せ方に関する貴重なアドバイスを頂きました。

夜は地元の海鮮料理を初めて時価で堪能し、特別な経験となりました。

2日目は澁谷さんの発表が夕方にあったため、それまで伊勢神宮の外宮・内宮を参拝しました。猛暑の中、汗だくでのお詣りでしたが、内宮近くのおかげ横丁で食べた赤福のかき氷が格別でした。

夕方、澁谷さんの発表を聴講し、全日程を終えて帰路に着きました。学会を通して多くの知識を得られ、非常に有意義な経験となりました。来年は長崎で7月24日・25日に開催予定です。来年参加される方々頑張ってください。



第74回日本病院学会に参加して

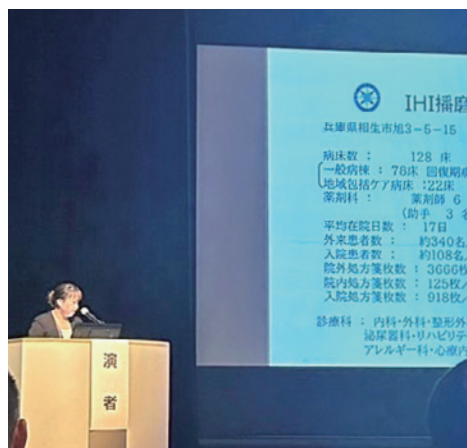
薬剤科 澁谷 恵美子

この度7月4日、5日に三重県総合文化センターで開催された第74回日本病院学会に参加させていただきました。2,000人以上が集まる学会で、開催期間中は津駅周辺は関係者で賑わっていました。

初日は柴田さんの発表があり、「活動」を評価したFIM点数を可視化したレーダーチャートについての内容で多くの聴衆の方々が集まっていました。私は2日目に多剤併用により副作用や有害事象が起こるポリファーマシー問題について口頭発表をさせて頂き、減薬しやすい薬剤にどのようなものがあるか、また配合錠の使用方法等について等質問も多数いただき、やはりポリファーマシー問題はどの施設でも課題であることを痛感いたしました。今回は現地開催と後日WEB配信のハイブリッドで行われ、現地参加では質問を受けたり他施設の方と交流でき、コロナ禍以前の活気ある学会の雰囲気を感じることができました。また病院学会では病院に関わる様々な部門の発表があり、改めて病院の成り立ちには多くの職種が必要であり自身もその一員としてよりいっそう精進しなければいけないと思いました。

そして、このような機会はめったにないので夜は美味しい松坂牛の焼肉や海鮮料理を食べ、お伊勢さんに参拝し、近鉄特急「ひのとり」に乗ることもでき三重県を満喫させていただきました。

今回の学会参加にあたり、ご協力いただきました関係者の皆様に深く感謝するとともに、大変貴重な経験をさせて頂きましたことに心よりお礼を申し上げます。



第37回院内総合学習発表会

令和6年10月16日(水) 17:50～ 2F大ホール

演 題

- 1 温電法による排便ケアの有効性について
4階病棟 岡田 早世
- 2 皮膚科短期入院用の医療者用クリティカルパスを導入して
5階病棟 西本 めい
- 3 2023年度夏季節電に関する取組み ～前年比使用電力量の削減を目指して～
事務部 総務課 振角 俊行
- 4 肝炎医療への多職種連携の取り組みについて
肝疾患対策チーム 小野 慎也
- 5 入院時口腔機能スクリーニングを試験的導入して
リハビリテーション科 平井 拓也
- 6 能登半島地震災害支援報告
災害支援ナース 湯口 弥生
- 7 糖尿病網膜症について
医局 萩原 正典
- 8 第74回病院学会参加者報告
リハビリテーション科 柴田 智規



結果発表

優秀賞 肝疾患対策チーム 小野 慎也
優良賞 総務課 振角 俊行

第75回日本病院学会において、上2演者が発表します



開催日

2025/7/24 ～ 2025/7/25

会場

出島メッセ長崎



「AIOIドラゴンボートフェスティバル2024」始末記

相生市医師会 会長
医)IHI播磨病院 理事長・病院長 **西川 梅雄**

令和6(2024)年9月15日(日)去年に続いて2回目のドラゴンボートフェスティバルが予定通り開催されました。天気予報では雨または豪雨みたいな感じでしたが、日頃の行いが良かったためか、雨は降らず時々青空が見えたりする蒸し暑い日になりました。日本各地から54チーム、特に沖縄から6チームの参加があり、外国の方も「陽気に」参加されていました。

9時から開会式。実行委員会会長半田佳彦先生の挨拶に続いて相生市長谷口芳紀氏、衆議院議員山口壯(元環境大臣)氏、など諸先生方の後に私も相生市医師会長として挨拶させて頂きました。

山口議員は元外務省官僚で在米日本大使館にも長く勤務されていたので、挨拶の最後に大変流暢な英語でもスピーチされました。そこで私も挨拶の最後でお世辞にも流暢とは言えないコテコテの「関西弁風」にThank you very much for joining AIOI dragon boat festival 2024 …とやったら結構ウケたように思います。

司会者が「改めまして来賓の紹介…」ということで相生市長〇〇様、と順に紹介して来て、私の右隣に座っていた相生市議会議長〇〇様を紹介した後、「次は自分や」と思い、勢いよく立ち上がりました。すると、司会が「相生市議会議員の皆様です」と紹介され、後ろに座っていた議員の皆様が一斉に立ち上がりました。私は「ずっこけ」てしまいました。私のフライングに会場は大爆笑。谷口市長や山口元大臣も大笑いしていました。そのあと当然相生市医師会長西川梅雄様と紹介されたので、元気よく立ち上がって、左手で帽子をとって、右手でこぶしを作って振り上げたら「大歓声」でした。自分で言うのもなんですが間違ってもウケて笑いをとり、開会



前列左から、谷口芳紀相生市長、山口壯衆議院議員(元環境大臣)、後列は相生市議会議員の方々。



挨拶中の私。英語もちょっとだけ入れてスピーチしました。この後フライング・ズッコケ爆笑事件(本文参照)が発生。

式を「全部持って行った」感じでした(以上開会式のフライング・ズッコケ爆笑事件、病院ホームページの動画参照)。

司会の方が開会式直後、私に紹介の順番間違えてすみませんでしたと謝りに来られたのですが、「開会式からあれだけ盛り上がったのは君(司会)のおかげやから私の方が感謝したい」と返事しました。考えてみると市議会議長の後に市会議員という順番の方が妥当かも知れません。

引き続き9時半頃からドラゴンボート第1レース(予選1組)が始まりました。三部門すなわちSPECIAL(経験者)29チーム、ROOKIES(初心者)11チーム、WOMEN(女子のみ)14チーム合計54チームがそれぞれ熱戦を繰り広げました。



ドラゴンボート(12人乗)



ペーロン(32人乗り)

ここでドラゴンボート競漕とペーロン競漕について説明します。

日本ドラゴンボート協会ホームページによると、今回相生で使用されたドラゴンボートはスモール艇で、長さ9m、幅1.16m、12人乗り(漕ぎ手10名、太鼓手1名、舵取り1名)のボートで200mの直線コースを競漕するものです。

一方相生ペーロン競漕で使用する船は、長さ13m、幅1.58mの木造和船で、32人乗り(漕ぎ手28名、太鼓、銅鑼、艇長および舵取りがそれぞれ1名)です。相生ペーロンでは直線300mを右回りに1回ターンして往復する600m。男子決勝では2回ターンして1.5往復900mを競漕することになります。同じペーロン競漕でも長崎では左回りにターンする

など開催地域によって多少ルールに違いがあるようです。

1チームの人数、コースの長さでターンの有無が主な違いです。

注意すべきことはドラゴンボートは幅が狭く軽量なので不安定です。乗・下船時やゴールした後に喜んで漕ぎ手が立ち上がったりすると転覆(沈)することがあります。新型コロナ禍が落ち着いたので当院も今回は「アーレー播磨病院」としてROOKIES(初心者)部門で1チーム参加できました。

当院チームの出場までに時間があつたので、開会式の後には主に本部・来賓テント付近をうろついていました。



本部・来賓テントに居たら
みなとの女王さんが挨拶に来られました。

た。U.S.NAVY Summer DraGOns特製のシールや小物(ペットボトルハーフカバー?)を頂きました。

ところでわが「アーレー播磨病院」は乗組員漕ぎ手10名と太鼓手柴田君および舵取り木下君の合計12名。

予選は第9レース予選3組で発艇予定時刻11:25でしたが、実際は少し早めで11時10分ごろ発艇。競争相手は1レーン「感謝カンゲキ雨☆アラキ☆(神戸市)、2レーン「侍」(相生市)、3レーン「アーレー播磨病院」の3チームでした。

スタート直後からアーレー播磨病院は調子よく、他の2チームを徐々に引き離し、100m付近で2位以下を1艇身以上引きはなし、そのまま逃げ切ってあっさり1位で予選通過しました。タイムは1分7秒台。2位は「侍」で1分16秒、3位は1分23秒でした。2位以下に9秒以上の差をつけて圧勝でした。

次は準決勝の第1レース(第22レース)でした。14時16分ごろ出艇。1レーン「純・や～のー」(相生市)、2レーン「陸ペーロンチーム」新「」(相生市)、3レーン「みんなで舟漕がん会MIX」(相生市)、4レーン「アーレー播磨病院」、5レーン「007世登より愛をこめて」の5チームでした。レースは序盤から厳しい展開になりました。100mあたりから1～3レーンのチームが徐々にわが艇を引き離し、

みなとの女王さんが挨拶に来られました。当然記念撮影しました。

その後沖縄からWOMENの部に参加のSummer DraGOns 4,5(DraGOnsのGOは名簿のまま。4と5で2チーム)の方々が挨拶に来られました。出身はどこか世間話をグダグダしていると、何だか次第に大変盛り上がって最終的にはほぼ全員集合して記念撮影。全員アメリカ海軍所属でした。



本部付近に挨拶に来た
Summer DraGOnsの方々と記念撮影。



全員陽気なチームSummer DraGOns 4&5 (2チーム分、沖縄)の皆様。全員US Navy(米海軍)所属。私が親指立てポーズしたらほぼ全員同じポーズしている。また来年も参加すること。

逆に5レーンのチームには1艇身以上引き離しつつ終盤を迎えました。結果は1位「陸ペロンチーム新」1分2秒、2位「純・や～のー」1分3秒01、3位「みんなで舟漕がん会MIX」1分3秒73、4位「アーレー播磨病院」1分7秒05、5位「007世登より愛をこめて」(神戸市)1分18秒でした。



アーレー播磨病院

このレースでは3位まで決勝に進出できましたので、わがチームもあと一息で決勝に出られる?という感じで今年の競漕は終了しました。

チームに参加頂いた方々、応援に駆けつけて頂いた職員の皆様に感謝申し上げます。



アーレー播磨病院のメンバーと準決勝レース終了後記念撮影。皆よく頑張りました。

なお1レーンの艇がゴール通過後転覆(沈)するというハプニングがありました。幸いけが人などはなかったのですが、気を付けてほしいところです。

2つのレース終了後全員で記念撮影しました。この直後にKADENA SHOGUNSのメンバーの方女性2名が近寄ってきて、特製のステッカーなどを頂きました。こちらはUS Air Force(米空軍)所属でした。国際交流も多少できたかなという感じです。



市内某所でレースを振り返ってお疲れ様会「潮流し」。やはり直接(対面)のコミュニケーションが一番盛り上がるようです。

18時過ぎから市内某所で潮流し。競漕のあとに行う「打ち上げ」を「潮流(しおなが)し」と言います。チームのほぼ全員参加しました。このような地域のイベントは「見に行く」のではなく「参加するもの」だといつも思います。1日を振り返りながら、あっという間に夜は更けていきました。お店のお客はみな帰り、記念撮影したときは私たちだけになっていました。

朝から晩まで「熱い」1日でした。